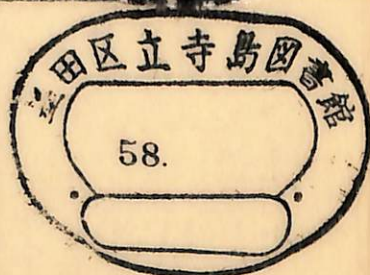
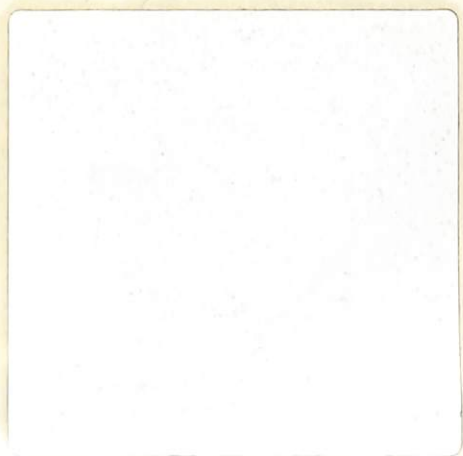


むかし

墨田にあった
お寺



行



はじめに

墨田区には、現在は勿論、過去においても多くの古刹、名刹がありましたが、近くは戦災、遠くは関東大震災のため、甚大な被害を受けたものも少なくありません。そして他地域へ移転したものも相当数ありました。中には震災前に移転したものもあり、貴重な文化財を保存しておられる向きもあります。勿論焼けた寺院であっても、墨田の郷土史を学ぶ上で重要な資料を提供されます。

この度、そうした寺院をお訪ねして、ごく概略ながら沿革や現況調査をいたしました。短時日に実施いたしましたので、不備な点も多く、また原則として大正以前に移転したものは含めておりません。

なお、最後になりましたが、本調査に快く御協力下さいました各寺院の御住職に対し心から御礼申し上げます。

昭和五十八年三月

墨田区教育委員会

目次

最勝寺	一	感応寺	十五
成就寺	二	泉竜寺	十六
大法寺	三	普賢寺	十七
大雲寺	四	最教寺	十八
東江寺	五	清光寺	十九
南蔵院	六	参考	
延命寺	七	羅漢寺	二十
徳正寺	八	出山寺	二十一
妙源寺	九	光徳寺	二十二
碩運寺	十		
本仏寺	十一		
眞盛寺	十二		
蓮光寺	十三		
永隆寺	十四		

表紙のイラストは

南蔵院 しばられ地蔵

(菊田 実・画)

1、最勝寺

(牛宝山 明王院)

天台宗 浅草寺末

旧所在地 本所区表町六五番地

(現) 東駒形二丁目二番

現在地

江戸川区平井一丁目二五番



沿革

元慶元年(八七七)慈覚大師の高弟、良本の創建と伝える。元牛嶋神社別当寺。本尊釈迦如来は慈覚大師作という。

この目黄不動は江戸五不動の一として著名である。

寛永の頃には將軍家光が数回訪れている。

現状

大正二年の移転で震災・戦災を免れているので、本尊を始め、重要な仏像等は現在する。なお、当区関係として、

富田木歩・立川焉馬の墓がある。

かなり広大な寺域をもち、寺格を保っている。

2、成就寺

(嘉桂山 西光院)

天台宗 延暦寺末

旧所在地 本所区中ノ郷竹町二七番地

(現) 吾妻橋一丁目一四番

現在地 江戸川区平井一丁目二四番



沿革

嘉祥元年(八四八)慈覚大師創建と言う。『江戸砂子』、『江戸紀聞』は舜慶法印が正和三年(一一三四)創建と伝え、『寺社書上』は草創以後四百余年、寺地荒廃し、大僧都舜慶がこれを中興と述べる。

古くは嘉祥山寂光寺円仁院と唱え、寛永一八年(一六四一)寺号を改めた。

本尊阿弥陀如来は聖徳太子作と伝える。

明治四〇年墓地、昭和四年本堂等移転完了。

なお、俗称「からたち寺」は、寺門付近に見事な「からたち」の並木があったことによるが、現在は全くない。かなり広い寺域をもち、整備されている。

現状

3、大法寺

(宝聚山)

日蓮宗 法恩寺末

旧所在地 本所区中ノ郷業平町一二番地

(現) 横川一丁目一七番

現在地 江戸川区平井一丁目二五番

沿革

法恩寺八世大権院日巧上人の創建で、大永二年(一五二二)とも大永六年とも伝えられる。法恩寺と共に平河の地にあったが、谷中さらに元禄二年(一六八九)頃本所に移る。本堂の左に三十三番神堂、本堂に広布石があり「疱瘡」の守護神として信仰された。

広布石は千葉石ともいい、『江戸名所図絵』には、「伝え云ふ。往古、此靈石亀戸村の地にあり

しと。亀戸村、昔は鎌倉への街道たり。建長五年(一一五三)日蓮上人、下総国より鎌倉へ至り給ふ頃、彼所を過ぎ給ひ、此石面に法華の首題を書き給ひ、大いに広宣流布の願を誓ひ給ふ。依て広布石と号す。其後、千葉家に相伝せし故千葉石とも称せり。然るに日巧上人は、俗姓千葉氏なりし故に、出家得度の後当寺を創立し、此靈石もここに安置ありて日巧師も又自ら此石面に三十三番神の尊号を彫り添えられけるとなり。」

現状

かなり広い寺域をもち整備されている。なお、最勝寺・成就寺と当寺が同じ道路に沿っている。昭和四年に移る。



4、大雲寺

(長行山 専称院)

浄土宗 京都智恩院末

旧所在地 本所区押上町二〇九番地

(現) 業平三丁目三番

現在地 江戸川区西瑞江二丁目三八番



沿革

元和六年(一六二〇)梵誉上人貞存和尚が浅草森田町に創建。寛永八年(一六三一)二月の火災に類焼し、本所押上に移った。関東大震災後、昭和六年現在地に移転した。

本尊阿弥陀如来は運慶作と伝える。俗に「赤門寺」とも「役者寺」とも呼ばれて著名であった。墓域に中村勘三郎以下猿若代々の墓、その他歌舞伎役者の墓があったことによる。

現状

寺域全般に樹木が多く、山門も備えた如何にも寺院らしい環境である。墓地には歌舞伎役者の墓もあり、かつての隆盛を偲ばせる。また瑞江だけに寺域に流れが残り、墓地の入口には古めかしい石橋が架けられている。

5、東江寺

(玉島山 明星院)

天台宗 延暦寺末(寛永寺末)

旧所在地 本所区番場町六九番地

(現) 東駒形一丁目一五番

現在地 葛飾区東金町二丁目二五番



沿革

寺伝によれば、天徳二年(九五八)源満仲―満慶といつて恵心僧都の弟子―が、摂津国多田に沙羅連山石峰寺を建立し薬師如来を本尊とした。

後に比久聖珊が多田宗玄からこの薬師像を伝えられ、江戸に下って天正十一年(一五八三)東江寺を建立、貞享元年(一六八四)僧淳海が再建して中興開山となる。薬師如来は恵心僧都作という。

現状

寺域は割に広いが、幼稚園が併置されているので、墓域は広いとは云えない。震災前に境内にあった著名碑の数々は皆失われた。ただ幸いなことに薬師如来、不動明王、毘沙門天の三座像(高さ一五センチ程)は失われていない。現在地には昭和二年移ってきた。

6、南 蔵 院

(業平山 東泉寺)

天台宗 延暦寺末

旧所在地 本所区中ノ郷八軒町二五番地

(現) 吾妻橋三丁目六番

現在地

葛飾区東水元二丁目二八番



沿革

『東京府志料』には貞和四年(一三四八)の起立、林能和尚の開山とするが、『東京府寺院明細帳』では「創立不詳。中興開基権僧都林能法師、貞和四年中卒ス」とあって一致しない。

元禄一年(一六九八)水戸藩下屋敷の用地となり、本所小梅から中之郷八軒町に移る。境内に大日堂、明光稲荷社、地藏堂、旧業平塚があった。この地藏を俗に「しばられ地藏」という。

現状

現在地には前から同宗派の聖徳寺があったが、創立年代等不詳。堂舎の一部と「聖徳のマツ」と云う老松が残っている。南蔵院の境内地は広く、本堂、庫裡、客殿等はまだまだ新しく、鐘楼もあり、なかなか風格のある寺院となっている。なお、しばられ地藏は相変らず参詣者が多く、真新しい縄にぐるぐる巻きになっている。昭和元年この地に移転してきた頃は農村地帯であったが、現在は、すっかり宅地化し大きな団地なども近くにある。史跡めぐりで訪ねる人も少なくないようである。

7、延 命 寺

(三囲山 真珠院)

天台宗 浅草寺末 三囲神社別当

旧所在地 本所区中ノ郷八軒町一九番地

(現) 吾妻橋三丁目一番

現在地 葛飾区白鳥四丁目一三番



沿革

近江国三井寺の大僧都源慶が、三囲稻荷再興に際して傍に草庵を営み、ついで本堂等を造立し、延命寺と号した。創建は元和元年(一六一五)と伝える。

水戸徳川家下屋敷となったあたりに広大な寺地を有していたが、後に公収されて源森川以南に移転した。

寺内の不動尊は中之郷の瓦師、中氏彦六の作。『江戸砂子』によれば、彦六は他に並ぶ者のない名人、特に瓦で佛像を作れば仏工も及ぼないほど。高野山蓮華定院開山行勝上人は諸国の仏師画工に命じて俱利迦羅不動像を作らせたが心に叶わず、正保四年(一六四七)九月、時の住職盛遠法印が彦六に仏像を作らせたという。

現状

寺門を入るとすぐ右手に幼稚園がある、寺院としては何となくそぐわない感じである。墓域もさして広くなく、かつての三囲社の別当寺としてはいささか物足りない。

昭和二年に当地に移ってきた頃は曳舟川も近く、静かな所であった。瓦不動等、江戸時代の仏像も何体か現存するようである。

8、徳正寺

(弘誓山)

天台宗 浅草寺末

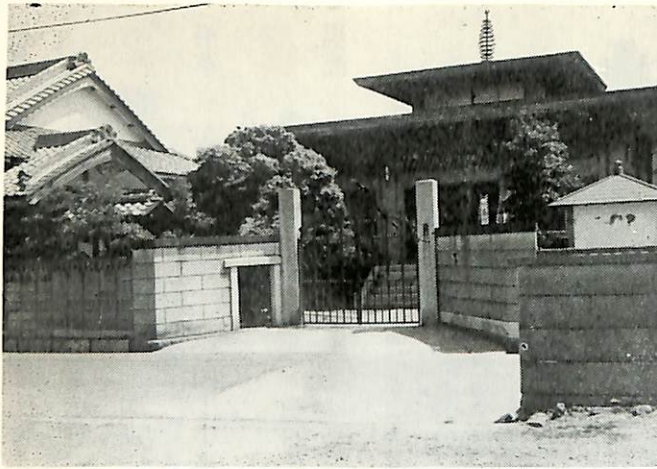
旧所在地

本所区押上町一八五番地

(現)業平四丁目六番

現在地

葛飾区西新小岩三丁目六番



沿革

永正一〇年(一五一三)の創建で、中興は僧存慶というが詳しくは不明。『東都伽藍記』によれば、境内五九四坪外に二五三坪神明社地とある。

現状

小住宅の多い環境に、鉄筋コンクリート造の本堂と整備された墓域とがある、現代的寺院である。昭和二年に現在地に移転した。

9、妙源寺 (正覚山) 日蓮宗 妙顕寺末 (栃木佐野市)

旧所在地 本所区番場町二二番地 (現) 東駒形一丁目九番

現在地 葛飾区堀切三丁目二五番

沿革 嘉元二年(一三〇四) 中老天目上人開創といい、『再校江戸砂子』は建武年中(一三三四)

八)の創建と伝える。

現況 番神堂、鬼子母神堂、道喜霊神堂と本立院、立性坊の二塔中があった。『再校江戸砂子』は建武年中(一三三四)は未整備でやや荒廃の感じもあるが、木造の立派な本堂―間口五間、奥行五間―の他、鉄筋の客殿

・庫裡と木造の鐘樓を備えている。

墓域は整然としており、都指定の安積良斎あさかこうさい(幕

府昌平校教官)の墓や、森田勘弥・河原崎権十郎歴代等の墓がある。なお、大正一五年現在地に移ってきている。



10、碩 蓮 寺

(鎮護山)

曹洞宗 駒込大門寺末

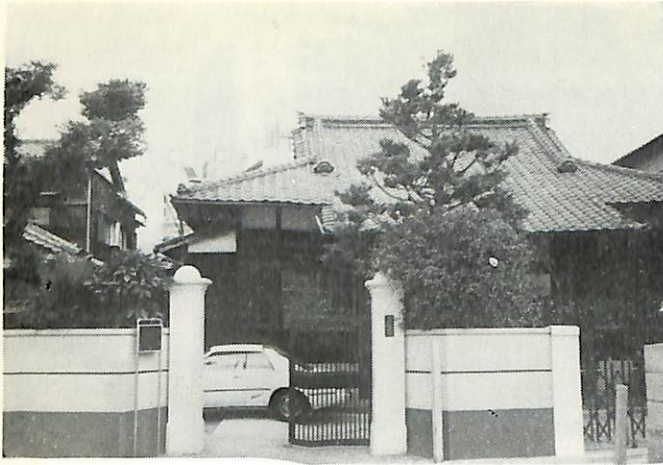
旧所在地

本所区石原町一七番地

(現) 本所一丁目二六番

現在地

荒川区西尾久二丁目二五番



沿革

慶長元年(一五九六)附山栄伝和尚の創建で、開基は千田庄兵衛である。境内社として新美稲荷社があって、石原の鎮守となっていた。

明治四一年に現在地に移ってから、住職松岡大機が境内に井戸を掘ったところ、ラジウム・エマナチオンを含む鉱泉であることがわかった。時に大正三年。これをもとに尾久温泉が生まれ「寺の湯」と称して尾久発展に貢献した。残念ながら現在井戸は埋められてしまっている。

現状

戦災を受け、現在は寺院らしい風格に乏しい。小住宅の密集した下町の寺というところか。

11、本 仏 寺

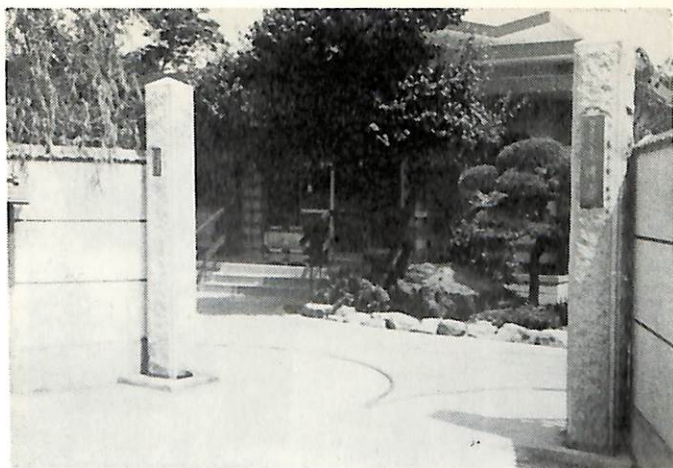
(安楽山)

日蓮宗 久遠寺末

旧所在地 本所区太平町一丁目二四番地

(現) 太平一丁目一四番

現在地 杉並区梅里一丁目一番



沿革

寛永八年(一六三一)谷中三崎の地に修行院日通上人が創建する。

元禄二年(一六八九)焼失し、翌三年本所に移る。さらに昭和一九年現在地に移転した。

当寺の鬼子母神像は、中山法華経寺、雑司ヶ谷と並んで関東三鬼子母神と称され、本所時代には信仰を集め、文化三年(一八〇六)頃には、三間に二間半の立派な鬼子母神堂も建立されたという。

この鬼子母神像は、下谷池ノ端の法華信者横田七郎右エ門が五人の子供を早死させ、妻が水垢離中に得たこの像に祈ったところ、丈夫な跡取りを得たという由来をもち、当寺に奉納されてからは「子授け鬼子母神」と呼ばれるようになったという。

現状

梅里一丁目には多くの寺が集中しているが、本仏寺はその中で、コンクリートの寺院建築であり、境内そのものはあまり広い方ではないが、行き届いたただずまを見せている。有名な鬼子母神像(江戸初期の作)は災害を免れた。

12、真盛寺

(天羅山 義善院)

通称 三井寺

天台真盛宗

西教寺末 (大津市坂本)

旧所在地

本所区中ノ郷業平町九番地

(現) 横川一丁目一七番

専売公社横川工場

現在地

杉並区梅里一丁目一番



沿革

寛永八年(一六三一)貞観上人が湯島天神前樹木谷に創建。一説には慶安三年(一六五〇)とも云う。

天和三年(一六八三)寺地を公収され、谷中清水町へ、さらに元禄元年(一六八八)の一二月中ノ郷村へ移る。そして大正一一年六月、現在地に本堂や大師堂を移す。

開創間もなく豪商越後屋三井高利の帰依を受け、以来その援護を受け、度重なる災害等もそれによって乗り切ってきた。三井寺の称の由来でもある。

現状

非常に広大な寺域をもち、山門に至る参詣の道の両側にも樹木が茂り、大寺の風格がある。また、本堂は安永五年(一七七六)の建物を移築したものであり、客殿、庫裡は元細川侯爵邸を移築した明治の建物で、用材がすばらしい。鐘楼は昭和四九年建築だが、本堂ともよく調和し、前庭も整備されている。又、本堂の裏庭は茶室もあって趣のある庭となっている。寺を囲むように杉並区保護林や梅林もあって、都内の寺院としては恵まれた環境であり、手入れが行き届いている。墓域も広い。

なお、山岡鉄舟筆の山号額が保存されている。

13、蓮光寺

(頂光山)

通称

土富店の大黒とぶたな

日蓮宗

久遠寺末

旧所在地 両国(詳細不明)

現在地 杉並区和田三丁目三〇番

沿革

文祿三年(一五九四)開創で、源受院日宝の開山と伝えるが、詳細不明。

正保元年(一六六四)浅草永住町に移り、大正三年現在地に移転した。

「土富店の大黒」と呼ばれて開運出世祈願で有名になった大黒天像は、日蓮上人が母妙連尼の病氣平癒を祈り、小湊の生家の松の木で彫ったものと伝え、当寺開山の日宝が小湊巡錫の折に庄

屋の娘の難産を助けたために、庄屋家に伝来したこの像を寄進されたという。

現状

環七通りに面したこの寺はマンション化工事中と見うけたが、蓮光寺と刻まれた石標がなければ、どうしても寺院とは見えない現状にある。



14、永隆寺

(春陽山)

法華宗 京都本能寺と摂津本能寺との両末

旧所在地 本所区太平町一丁目二二番地

(現) 太平一丁目一四番

現在地 世田谷区北鳥山四丁目一七番



沿革

慶長一七年(一六二二)頃日義上人が、神田寺町(現鍛冶橋)に創建したと伝える。その後、谷中清水門外をへて、元禄四年(一六九一)に本所へ移った。そして震災後、昭和三年現在地に移転した。

現状

北鳥山の寺町といわれる一角にあり、落ち着いたふん囲気である。

前庭に「鶏塚」という文政二年(一八一九)建立の供養碑がある。門前の石庭といい、静かなただずまいであり、墓域も広く、立派である。

15、感 応 寺

(如法山 正覚院)

浄土宗 浅草幡随院末

旧所在地 本所区荒井町一五番地

(現) 東駒形二丁目一〇番

現在地 世田谷区上馬四丁目三〇番

沿革

慶安四年(一六五一)の創建で、空蓮社香誉上人・清董比丘尼の開山である。古くは清薰寺と称し、後に桂昌院の父感応院の二字を賜わり、感応寺と改称した。江戸時代を通じ、將軍家から元禄五年(一六九二)二〇石、同九年一〇石、宝永二年(一七〇五)に二〇石の寺領を下附されている。大正一三年現在地に移転した。

現状

住職は同じ区内の大吉寺の兼任である。平常は寺門をとざし留守番がいるのみで、名刹の面影はない。しかし江戸時代から有名であった子育て蔵尊は本堂に安置されている。本尊阿弥陀如来も往時のままとか。



16、泉 龍 寺

(医光山 高照院)

天台宗 浅草寺末

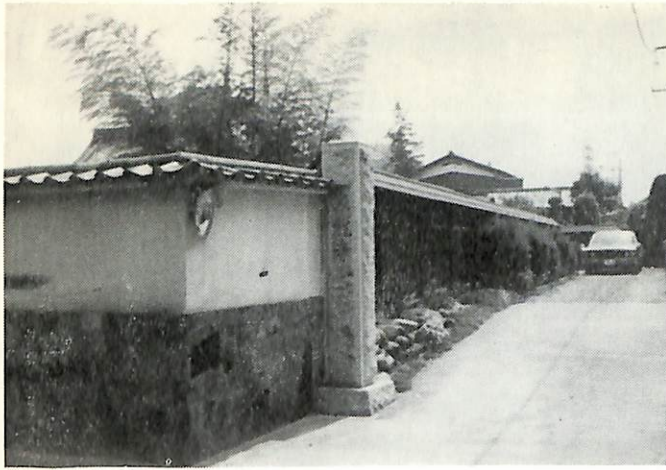
旧所在地

本所区番場町二〇番地

(現) 本所一丁目二六番

現在地

府中市紅葉丘二丁目二六番



沿革

創建者、年代とも不詳。寺でも記録焼失で不明という。

中興は文明三年(一四七一)宗賢法印と伝える。かつて川越地藏尊を安置してあり、場所柄「既河岸の渡し」の安全を祈るためであった。

現状

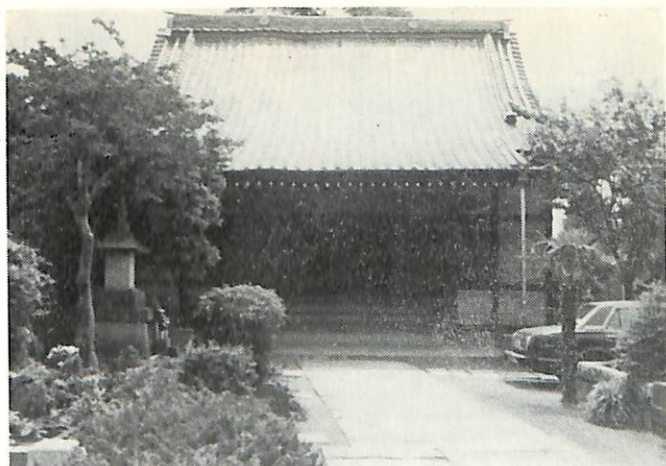
普賢寺と並んでおり、同じく震災後、昭和二年移転してきたという。門柱の普賢寺の文字を見なければ寺院とは知らずに通り過ぎてしまふようなほど、寺院らしい雰囲気をもっていない。本堂は仮設であり、墓域は多磨霊園内にあるという。

17、普賢寺 (高龍山 明王院)

天台宗 延曆寺末

旧所在地 本所区番場町五二番地 (現) 東駒形一丁目五番

現在地 府中市紅葉丘二丁二六番



沿革

『江戸紀聞』によれば創建は文明五年(一四七三)で、開山は良円和尚というが、詳細は定かでない。中興の開山は一二世正淳和尚と伝える。境内に高龍八幡宮を祀っていたが、これは、江戸時代種々怪異があったので、ここに奉安し、山号をとって神社名としたもの。

現状

木造の本堂は風格があるが客殿、庫裡等はまだ十分には整っていないように見受けた。本所で震災を受け、昭和二年現在地へ移転したため、古いものはすべて失われてしまっている。

本堂前庭の墓域は狭いが、多磨霊園に別に墓域が設けられている。

18、最 教 寺

(天松山)

日蓮宗 久遠寺末

旧所在地

本所区押上町二〇一番地

(現) 業平三丁目七番

現在地

八王子市宮下町一丁目四番



沿革

開基は仙能院日崇上人(身延山第二七代通心院日境上人の弟子)で、慶長元年(一五九六)創建である。

日崇上人は身延流祈祷の修法師で、將軍秀忠の息女千姫の病悩を祈祷により快癒せしめたので、秀忠は本所押上二千余坪の地に本堂・七面堂塔・鐘楼・池等を築造して日崇上人に寄進した。これを千姫の法号に因み天松山と号し、自分の房号をそのまま最教寺と名付けた。

明治三五年、浅草の玉泉寺と合併した。関東大震災で全焼、大正一四年、杉並区和田三丁目へ移転、昭和四〇年さらに現在地に再移転した。

現状

八王子も滝山城址に近い、緑豊かな丘陵の一画を開いて建てられた最教寺は、交通不便ながら、静寂な寺院環境に恵まれている。本堂、庫裡等もコンクリート建築だが、立派に整備され、墓域奥の崖上には千姫の墓碑があり、寺の由緒をしのばせる。なお、創建当時使われていた慧到院の院号は、今は使われていない。

19、清光寺（長景山）天台宗 延暦寺末

旧所在地 本所区荒井町一一番地（現）東駒形二丁目二番

現在地 千葉県松戸市松戸四八八番地

沿革

文明三年（一四七二）に俊能法印によって開創され、中興は権大僧都法印亭円と『戊子書上』は伝えるが、寺伝によれば貞観四年（八六二）慈覚大師創建とも言い、定かではない。『葛西志』も文明三年俊能法印開山としている。境内に護摩堂、稲荷社、宝篋印塔（高一丈二尺）等があった。水戸街道に近い高台にある。本堂、客殿ともに質素な木造であり、「清光寺」と刻まれた大きな石標はあるが、寺門はない。しかし、御住職の話では、二、三年中に本堂その他の改築工事が完成して立派な寺院が出現するはずである。

なお、墓域は二ヶ所にあり立派に整備されている。また、本尊地藏大菩薩は、関東大震災のおり、辛くも御首のみが安泰であったので、境内にのこった白檀の木を使って、二mほどの地藏菩薩座像を再現して現在も本尊として信仰している。

現在地に移転してきたのは昭和二年から三年にかけてである。



参

考

1、羅漢寺

元禄八年（一六九五）本所五の橋（現江東区大島三丁目）の南に松雲禅師によって創建され、天恩山羅漢寺と号し、黄檗山末である。

明治二〇年本所区緑町四丁目に仮堂宇を建てたが、明治四二年には、目黒区下目黒三丁目二〇番の現在地に移転している。

五百羅漢で知られる名刹なので、次の出山寺とともに、一応、むかし墨田区にあったお寺の末尾に参考として付記した。

2、出山寺

(隆幾山金光明院)

天台宗 浅草松葉町清水寺末

旧所在地

本所区荒井町二七番地(現)東駒形二丁目四番付近

現在地

区史によれば再建されていないことになっているが、情報によれば茨城県下の袋田滝の入口に移転、無住ではあるが、不動堂として現存するという。

沿革

天正八年(一五八〇)三月に圭円阿闍利が創建、本尊の自然木釈迦如来立像―台座ともに高さ一m余り―が釈迦出山(苦行を終え山を出た)の像に似ているため出山寺と称した。

縁起によれば、聖武天皇の神龜五年(七二八)八月に紀州の漁民が海上で風波の難にあい、浮木にすがって万死に一生を得たが、この浮木が実は「三国伝来の釈迦像」であって、後に出山寺の本尊とされたものである。「三国伝来」とは、唐の玄奘げんざうが天竺てんじくから持ち帰り、さらに唐から日本に流れついたということによる。

『甲子夜話』によれば、「世人謂ふ。この仏像に祈れば婦人難産の患なしと。予すなわち廻まわいかなる故にやと問へば、出山寺と云へばと答ふ」とある。

『江戸惣鹿子名所大全』によれば「自然木出山の釈迦像あり。天工の妙自然に成て希代の像なり。往て拝すべし。」

3、光 徳 寺 (福寿山 観音院) 天台宗 浅草寺末

旧所在地 中ノ郷原庭町 (現) 東駒形三丁目か

沿革 開山、開基一切不明、天文五年(一五三六)の創建と伝えるが、明治初年の記録に既に寺名は見当らず。(墨田区史による)

基本
本
氏
ノ
寺

基本カードなし

123		

おつ

★いちばんあとの日までにおかえしてください。

てらじまとしょかん
でんわ 611-4610

墨田に

あったお寺

昭和五十八年三月

墨田区教育委員会

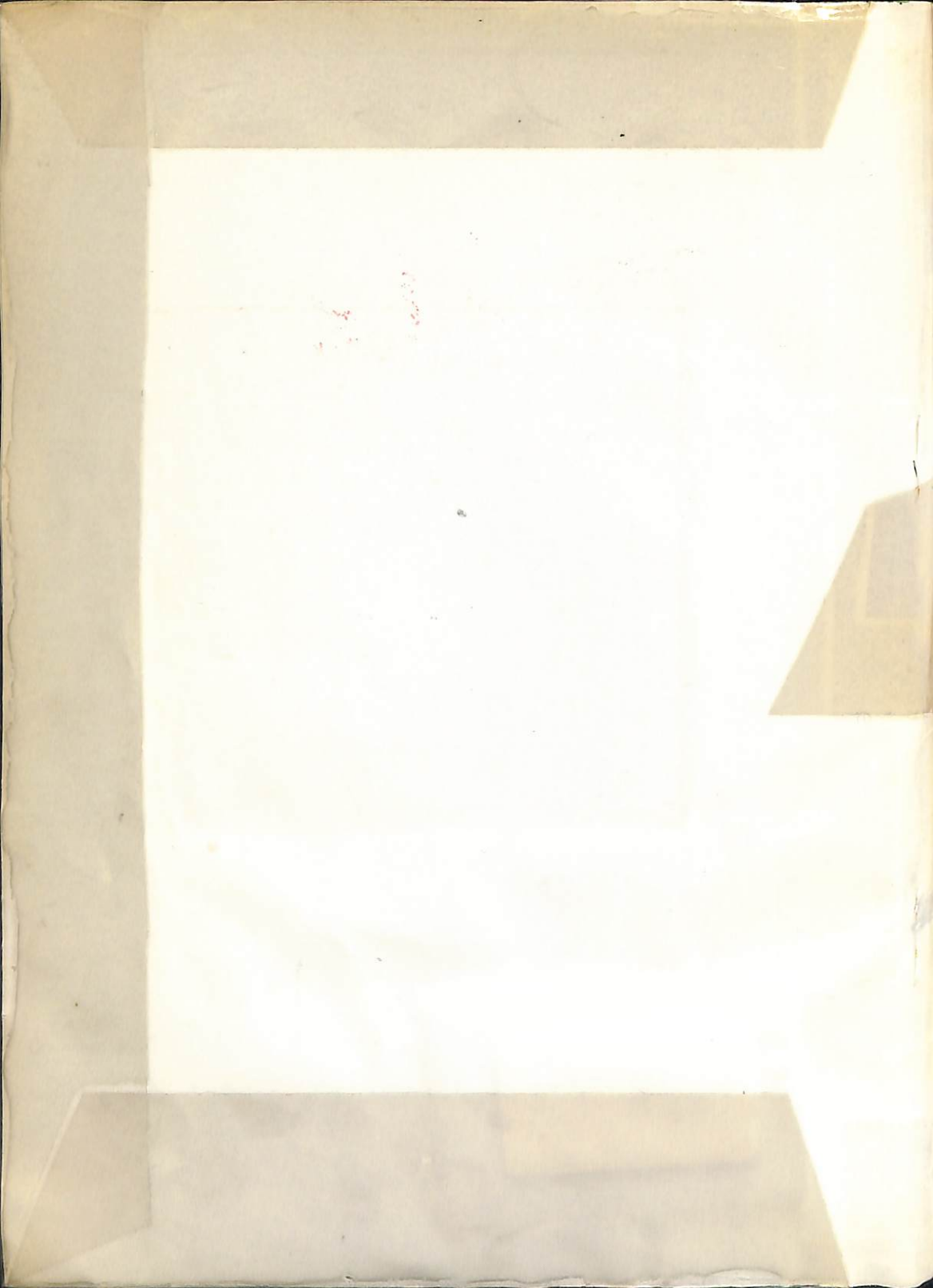
社会教育課

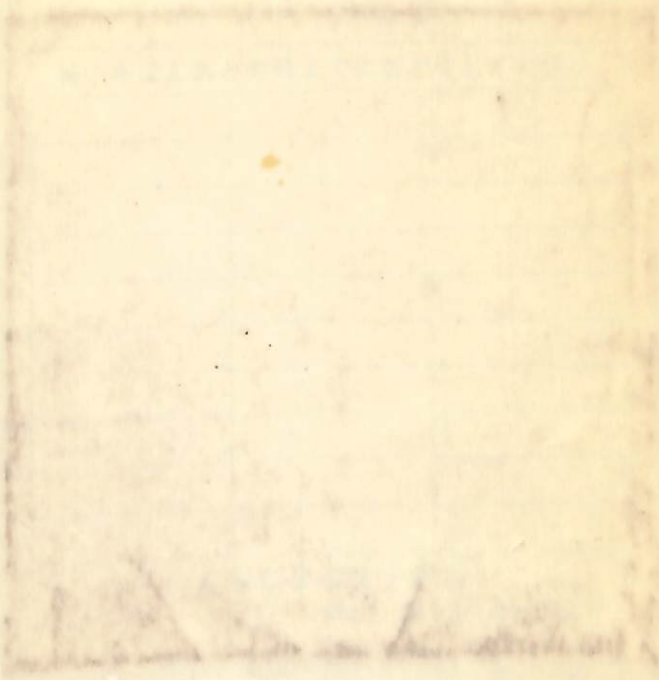
墨田区横綱一ノ六ノ一

電話(六二六)三二五一

合同印刷株式会社

電話(六二四)六一一一





女

85.9
田区

ひきふね自動出納



21 147258